

第332回: 肝内胆管癌との鑑別が難しかった肝膿瘍の一例

(2018.11.30)

久保田 陽 (司会, 救命救急医学), 眞山 到, 村雲 芳樹 (病理学),
小西 宏明, 小山 栞, 櫻井 要 (研修医)

症例概要

症例: 91歳, 男性

主訴: 発熱

既往歴: 不明

家族歴: 不明

現病歴

〇〇年〇月〇日にふらつきがあり近医受診。近医にて採血, 採尿, 胸部X線を施行し, 炎症反応やトランスアミナーゼの上昇を認めて前医へ搬送となった。前医にて採血を施行し播種性血管内凝固を疑われ, 腹部

超音波, CTにて, 胆内胆管癌, 肝膿瘍が疑われ, 当院へ搬送された。造影CT画像からは肝内胆管癌と肝膿瘍の鑑別は困難であるが, 細菌性肝膿瘍やアメーバ性肝膿瘍の可能性を含めて禁食とし, 補液, 抗生剤(メロペネム1g×1, メトロニダゾール500mg×3)にて治療したが, 第2病日11時頃心停止し, 死亡された。

病理所見

主病変: 肝膿瘍

随伴病変: 脾炎, 諸臓器うっ血(肺 393 g; 404 g, 腎 85 g; 94 g), 腔水症(胸水 300 ml; 400 ml, 腹水 250 ml)。

(当症例は学術誌に投稿予定のため, 抄録のみ掲載した)